科目名:障害児心理学特論Ⅰ	担当者:三山 岳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
臨床発達心理学および生涯発達心理学の観点から、障害児心理学についての理解を深める。人間は生涯に渡って発達する存在であり、障がいを理解し、支援するためには幼児期・児童期だけでなく、生涯にわたるライフステージや支援のあり方を理解する必要がある。文献講読や議論を通して大学院での研究に必要な知識を学ぶ。

授業の到達目標
1. 障がいの捉え方をアセスメントの方法も含めて理解し、高度な専門知識（DP)を身につける
２．幼児期・児童期に加え、成人期・老年期も見据えた障がい理解を深め、支援の汎用的思考力（ＤＰ）を高める

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
できるだけ職場やボランティアなどで障がいのある方や子どもにかかわり、講義の内容に照らしながら実践現場での応用・発展や疑問・課題を見いだして、講義での議論に反映できるよう準備・事後学習を進めること

評価方法
授業への主体的・探究的な取り組みの姿勢、半年間に１～２回行う課題レポートの提出状況、そして最終試験を総合的に評価する。最終試験は原則として、授業の中から見出した課題に沿った自らの実践をレポートとして提出することとする。

教科書	参考図書
障害児・障害者心理学特論 （改訂新版） （大六一志・山中克夫 編著 放送大学教育振興会 2019）	随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義の内容と自身の実践を具体的につなげて考える姿勢を期待する。院生からの連絡を必要とする場合は、メール（miyama@ews.aichi-pu.ac.jp）にご連絡ください。

01	オリエンテーション
02	障害児・障害者に対する心理の専門家の関わり
03	障害児・障害者と発達
04	障害児・障害者と関わるうえで知っておきたい理論や概念
05	障害児・障害者のためのアセスメント　技法１：アセスメントの流れ
06	障害児・障害者のためのアセスメント　技法２：検査法
07	障害児・障害者のためのアセスメント　技法３：行動観察法
08	発達期の障害臨床例１：自閉スペクトラム症
09	発達期の障害臨床例２：注意欠如・多動症
10	発達期の障害臨床例３：限局性学習症、発達性ディスレクシア
11	社会移行期の障害臨床例：障害学生支援、就労支援
12	成人期の障害臨床例：高次脳機能障害・認知症
13	対応が難しく、個別性の高い障害者に対する心理的介入法
14	障害のある人の家族を支える
15	講義のまとめ
16	試験無し

2024年度シラバス

科目名:障害児心理学特論Ⅱ	担当者:三山　岳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育・教育の場で障がいのある子どもを含めたすべての子どもが安心や安全を感じられ、参加を保障されるインクルーシブな環境について理解を含める。『すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へ』に収録された論考や講義で提示する特別支援教育に関連する文献を輪読し、研究に必要な分析力・考察力を身につける。

授業の到達目標
1. 障がいの捉え方をアセスメントの方法も含めて理解し、高度な専門知識（DP)を身につける
２．多文化も含めた共生社会の創造に貢献する高度な専門知識（ＤＰ）を身につけ、汎用的思考力（DP）を高める

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
できるだけ職場やボランティアなどで障がいのある方や子どもにかかわり、講義の内容に照らしながら実践現場での応用・発展や疑問・課題を見いだして、講義での議論に反映できるよう準備・事後学習を進めること

評価方法
論文講読の発表（50%）および学期末レポート（50%）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。

教科書	参考図書
すべての子どもの権利を実現するインクルーシブ保育へ（芦澤清音・浜谷直人・五十嵐元子・林恵・三山　岳・飯野雄大・山本理絵 編著 ひとなる書房 2023)	幼小接続や特別支援教育に関連する文献を随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義の内容と自身の実践を具体的につなげて考える姿勢を期待する。院生からの連絡を必要とする場合は、メール（miyama@ews.aichi-pu.ac.jp）にご連絡ください。

01	オリエンテーション
02	インクルーシブ保育の風景
03	違う文化っておもしろい
04	どの子も「気になる子ども」になったとき
05	「また今度」と言わなくてもいい保育へ
06	医療的ケア児の意見表明から考えあう保育
07	スウェーデンと韓国におけるカリキュラムの動向と実践
08	意見表明権の保障にもとづく「参加」のプロセス
09	多種多様なインクルーシブ保育が共有する原則とは
10	インクルーシブ保育についてのまとめ
11	幼小連携の課題
12	子ども・障がい者の権利条約とインクルーシブ教育
13	特別支援教育におけるインクルーシブな環境とは
14	インクルーシブ教育についてのまとめ
15	講義全体のまとめ（自身の研究と障害児心理学の接点を考える）
16	試験無し

科目名:発達心理学特論Ⅰ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育・教育現場で接していく子どもたちは、教科書の子どもたちと同じでしょうか。この授業では、発達の理論を自身の具体的体験から再考していくこと、最新の発達心理学のトピックスを共有することを中心にしていきます。授業方法としては、文献を輪読すること、プレゼンすること、ディスカッションすることを行います（AL）。但し、授業計画で示す内容は、受講者の人数や関心により変更することがあります。

授業の到達目標
1）既存の発達理論を心理学の専門用語を用いて、深く理解することができる（DP：専門知識）。
2）最新の発達心理学のトピックスについて、批判的に思考することができる（DP：汎用的思考力）。
3）先行研究を踏まえたうえで、自身の発達観や子ども観を言語化することができる（DP：汎用的思考力）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
輪読する資料は事前に読み、疑問点を整理しておく（準備学修）。
授業内でのディスカッションを再度、自分の言葉で整理する（事後学修）。

評価方法
ディスカッション（50%）、プレゼンテーション（50%）などを総合的に評価する。
日常的な授業への参加態度、自主的・主体的・協力的な学習への取り組みを重視します。
プレゼンテーションに対するフィードバックは随時行う。
また最終回においては、ディスカッションを含めた全体のフィードバックを行う。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育・教育の慣れ親しんだ景色に対し、疑問をもつ姿勢を大切にしましょう。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	それぞれの子ども観
03	発達の理論：エリクソン
04	発達の理論：ピアジェ
05	子どもの自己肯定感
06	子どもの道徳性
07	外見の違いをもって生まれるということ
08	外国につながりのある子ども
09	子どもと対峙する大人の育ち
10	家族会話
11	大人を支えるネットワーク
12	父親の役割
13	病気があること
14	障害があること 障害があること
15	全体のまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:発達心理学特論Ⅱ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特論Ⅱでは最新の知見を学ぶのではなく、自身で作り上げる、研究をしていくことの練習をしていきます。発達心理学的な問いに対し、どのような方法論で問いに応じていくのか、実際にデータを取得することによって解決していきます【AL】。近年は、再現可能性が心理学分野でも問題になっていますので、古典的な、教科書に載るような研究も追試していくことがあるかもしれません。

授業の到達目標
1) 発達心理学の研究法について専門用語を用いて、理解することができる（DP：専門知識）。
2) 問い（目的）に対して適切な方法論を考えることができる（DP：汎用的思考力）。
3) 妥当性や信頼性、研究の倫理についても理解し、研究者としての素養を身につけることができる（DP：汎用的思考力）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
現場での子どもの言動に対する問いを列挙しておく（準備学修）。
統計学的検定については何度も復習をする（事後学修）。

評価方法
ディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）を総合的に評価する。
プレゼンテーションに対するフィードバックは随時行う。
また最終回においては、ディスカッションを含めた全体のフィードバックを行う。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究と実践を往復しながら、それぞれの答えを見つけましょう。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	今日的課題
03	発達心理学の研究法
04	自然観察：テーマ決め、準備
05	自然観察：体験
06	自然観察：分析、考察
07	実験的観察：テーマ決め、準備
08	実験観察：体験
09	実験観察：分析、考察
10	事例検討１:生活場面
11	事例検討２：遊び場面
12	発達検査１：K式
13	発達検査２：WPPSI
14	発達検査３：WISC
15	全体のまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:乳幼児心理学特論Ⅰ	担当者:森山 雅子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、近年の乳幼児心理学についての科学的な知識について取り扱います。テキストを講読し、議論、解説をします。またそのうえで、みなさんの現場を振り返りながら応用可能性を議論しましょう。テキスト講読は、持ち回りでリポーターをしていただき進めます。

授業の到達目標
１．乳幼児心理に関わる研究やその理論についての知見（DP）を身につけ考察できるようになる。２．乳幼児心理学の研究を概観することで研究に必要な情報を整理し繋げ批判する力である汎用的思考力（DP）を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
心理学の研究をベースとしたテキストのため非常に難解です。授業の前後の学修もしっかり行うよう努めてください。また不明瞭なところを質問できるようまとめておくことも重要です。
準備学修では、事前に配布された論文や資料、テキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておいてください。
事後学修では、授業で学習したことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしましょう。

評価方法
試験課題レポート　50%、授業への取り組み状況・参加態度　50%で総合的に評価します。
フィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
森口佑介（2014）「おさなごころを科学する」新曜社	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
心理学の研究をベースに乳幼児の発達やその応用可能性について考えます。連絡手段等は授業時にお伝えします。

01	授業の進め方等のガイダンス
02	発達心理学からみた乳幼児観
03	無能な乳幼児（１）
04	無能な乳幼児（２）
05	活動的な乳幼児（１）
06	活動的な乳幼児（２）
07	かわいい乳幼児（１）
08	かわいい乳幼児（２）
09	有能な乳幼児（１）
10	有能な乳幼児（２）
11	社交的な乳幼児（１）
12	社交的な乳幼児（２）
13	コンピュータ乳幼児（１）
14	コンピュータ乳幼児（２）
15	まとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:乳幼児心理学特論Ⅱ	担当者:森山 雅子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、日誌的観察記録のテキストを用い、乳幼児における社会歴史的な文脈における発達について理解する。子どもを観察する視点や記録について議論する。
このテキストでは、1980年代子どもたちの間でビックリマンチョコのおまけシールが大流行した騒動を取り上げている。「子ども文化」「子どもの経済学」「社会歴史的な文脈における発達」をテーマにし、乳幼児の心理について議論したい。
受講生でレポーターを分担し、読み合わせながらのディスカッションを中心に進める。

授業の到達目標
１．社会歴史的な文脈を通して、乳幼児の発達について学び直し、議論する中で専門的知識（DP）を深めることができる。
２．日誌的観察記録から、子どもを観察する視点や、記録をする際の留意点などを議論しながら考え、研究に必要な思考力、汎用思考力（DP）を深めることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学ぶ理論的なことと実践を結びつけて理解し、実践に活かしていくことを大切にしていただきたいので、授業だけでなくその前後の学習も重視します。準備学修として、事前に配布された資料やテキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておくこと。事後学修としては、授業で学んだことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしてください。

評価方法
試験課題レポート　50%、授業への取り組み状況・参加態度　50%で、総合的に評価します。
フィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
麻生武『6歳3歳のおまけシール騒動』新曜社	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
3歳児を中心とした乳幼児の発達の面白さ難しさを記録を通して学び直しましょう。また日誌的観察記録についても知りましょう。

01	受講者の問題意識を議論する。
02	教科書の3つのテーマについて検討する
03	ビックリマンシールに先立つ子ども文化（１）発表
04	ビックリマンシールに先立つ子ども文化（２）議論
05	欲望がくすぶり始め火がつく（１）発表
06	欲望がくすぶり始め火がつく（２）議論
07	欲望の火が燃え広がる（１）発表
08	欲望の火が燃え広がる（２）議論
09	ビックリマンシールの流行の飽和（１）発表
10	ビックリマンシールの流行の飽和（２）議論
11	ビックリマンブーム消滅への長い道のり（１）発表
12	ビックリマンブーム消滅への長い道のり（２）議論
13	歴史的状況に埋め込まれた子どもたちの発達（１）発表
14	歴史的状況に埋め込まれた子どもたちの発達（２）議論
15	まとめ
16	試験なし

科目名:カウンセリング特論Ⅰ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
情動理論の立場から乳幼児 - 養育者及び仲間同士の関係性を探究していく講義を行います。最初に情動理論の基本概念を示し、国内外の情動研究における重要な知見を概説します。それと併せて、カウンセリングに必要とされる理論と諸技法に関する講義と学生による論文講読を行います。情動理論を参照枠として教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者の理解と心理支援のあり方に対する自らの視点の獲得を目指します。【AL】

授業の到達目標
1. 情動理論の基礎的な内容を理解し、説明することができる(DP：専門知識)
2. カウンセリングの基本的な理論や技法について理解し実践することができる。(DP：汎用的思考力)
3. 理論や技法に関する知識を用い、情動理論を参照枠として、事例の見立てや介入について考えることができる。 (DP：汎用的思考力)
4. カウンセリングを学ぶことで自己理解・他者理解を深める (DP：汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
【準備学修】事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおす。
【事後学修】教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求する。

評価方法
課題の発表（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（プレゼンテーション、レポート等）に対しては、次回の授業日で、個別にフィードバックする。また、特徴的な見解についての解説や学生のよくできた資料や発表内容などのに対する全体講評を行う。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション
02	情動理論(１)情動とは何か：機能性/発達/知能
03	情動理論(２)情動はどのように生み出されるのか：自己/他者/社会・文化との関係性
04	情動理論を応用した子どもと養育者の心理支援
05	カウンセラーの職業倫理：「すること」と「してはいけないこと」について理解する
06	カウンセリングの理論①精神分析学
07	カウンセリングの理論①精神分析学についての論文講読、グループ発表【ＡＬ】
08	カウンセリングの理論②来談者中心療法
09	カウンセリングの理論②来談者中心療法についての論文講読、グループ発表【ＡＬ】
10	カウンセリングの理論③認知行動療法
11	カウンセリングの理論③認知行動療法についての論文講読、グループ発表【ＡＬ】
12	心理テストの実習　自己理解・他者理解を深める
13	カウンセラーに必要な資質と条件
14	カウンセリング心理学研究法
15	研究テーマの発見【ＡＬ】
16	なし

2024年度シラバス

科目名:カウンセリング特論Ⅱ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者を対象とした心理支援と心理学研究の方法論について、講義と事例を用いたグループワーク中心に理解を深めます。【AL】

授業の到達目標
1. 教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者を対象とした心理支援と心理学研究の方法論について理解を深める(DP：専門知識)
2. 各自の研究テーマに適した研究方法を選択することができる(DP：汎用的思考力)。
3. 心理支援のための基本的な理論と諸技法について学ぶ。また、知的理解にとどまらず、心理面接の事例検討やロールプレイ等を通して、体験的に理解することを目指す(DP：汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや保護者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
課題の発表（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（プレゼンテーション、レポート等）に対しては、次回の授業日で、個別にフィードバックする。また、特徴的な見解についての解説や学生のよくできた資料や発表内容などのに対する全体講評を行う。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション　カウンセリング特論Ⅰの振り返り
02	カウンセリングと心理学研究の方法論　アセスメントとは
03	カウンセリングと心理学研究の方法論　行動観察
04	カウンセリングと心理学研究の方法論　質問紙法
05	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（1）発達検査
06	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（2）知能検査
07	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（3）投影法
08	カウンセリングと心理学研究の方法論　面接
09	面接を体験的に学ぶ　ロールプレイ（発達に個性を持つ乳幼児の保護者の事例）【ＡＬ】
10	面接を体験的に学ぶ　ロールプレイ（情動に個性を持つ乳幼児の保護者の事例）【ＡＬ】
11	カウンセリングと心理学研究の方法論　プレイセラピー
12	プレイセラピーを体験的に学ぶ　（集団に適応できない幼児の事例）【ＡＬ】
13	集団面接について学ぶ　家族療法
14	カウンセリングのインテークから終結までの流れについて理解する
15	研究論文計画書作成　各自の研究テーマに適した研究方法の論文を購読し発表【ＡＬ】
16	なし

科目名:教育相談特論Ⅰ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育の場で、相談支援を実践、探求していくための講義を行います。最初に教育相談の基本概念を示し、関連する研究知見を概説します。それと併せて教育相談に必要とされる理論と諸技法に関する講義と学生による論文講読と発表を中心に授業を進めます。【AL】教育の場で出会う子どもたちや保護者の理解と相談支援のあり方に対する自らの視点の獲得を目指します。

授業の到達目標
1. 教育相談の基礎的知識を理解し、説明することができる(DP：専門知識)
2. 教育相談の技法について理解し実践することができる(DP：汎用的思考力)
3. 理論や技法に関する知識を用い、相談事例の見立てや介入について考えることができる(DP：汎用的思考力)
4. 教育の場で、理論や技法に関する知識を自分の力として実際に使うことができる。(DP:汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおす。
事後学修：教育の場で出会う子どもたちや養育者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求する。

評価方法
課題の発表（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（プレゼンテーション、レポート等）に対しては、次回の授業日で、個別にフィードバックする。また、特徴的な見解についての解説や学生のよくできた資料や発表内容などのに対する全体講評を行う。

教科書	参考図書
使用しない。	授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション
02	教育相談の基礎　意義と役割
03	教育相談の基礎　保護者への対応と基本
04	教育相談の基礎　教師のメンタルヘルスとその対応
05	教育相談に関する論文講読、グループ発表【ＡＬ】
06	教育相談に必要な発達と精神病理の知識
07	教育相談の実際（１）不登校への対応と予防
08	教育相談の実際（２）いじめへの対応と予防
09	教育相談の実際（３）非行への対応と予防
10	教育相談の実際（４）情報化社会における問題と対応
11	教育相談の実際（５）児童虐待とその対応
12	教育相談の実際（６）配慮が必要な子どもの理解と対応
13	教育相談の実際（７）子育てと家族の問題への対応
14	研究テーマに適した事例研究の論文講読、グループ発表【ＡＬ】
15	研究テーマの発見【ＡＬ】
16	なし

2024年度シラバス

科目名:教育相談特論Ⅱ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育の場で出会う子どもたちや保護者を対象とした相談支援と心理学研究の方法論について、講義と事例を用いたグループワーク中心に理解を深めます。【AL】

授業の到達目標
1. 教育の場で出会う子どもたちや保護者を対象とした相談支援と心理学研究の方法論について理解を深める（DP：専門知識）
2. 相談支援のための基本的な理論と諸技法について学ぶ。また、知的理解にとどまらず、相談支援の事例検討やロールプレイ等を通して、体験的に理解することを目指す(DP：汎用的思考力)
3. 教育の場で、理論や技法に関する知識を自分の力として実際に使うことができる(DP：汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおす。
事後学修：教育の場で出会う子どもたちや保護者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求する。

評価方法
課題の発表（50%）、授業への取組意欲（20%）小レポート（30%）により総合的に評価する。授業において提示した課題（プレゼンテーション、レポート等）に対しては、次回の授業日で、個別にフィードバックする。また、特徴的な見解についての解説や学生のよくできた資料や発表内容などのに対する全体講評を行う。

教科書 使用しない	参考図書 授業中に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【連絡方法・オフィスアワー】授業で開示する。【資料提示・課題提出】Moodleで受け付ける。【その他】授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション　教育相談特論Ⅰの振り返り
02	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（1）言語的なかかわりを中心として
03	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（2）非言語的なかかわりを中心として
04	教育相談における心理アセスメントについて学ぶ
05	教育現場で使用する心理検査について学ぶ　発達検査・知能検査
06	心理検査を教育相談に活かす方法を学ぶ【ＡＬ】
07	事例から学ぶ教育相談（１）不登校【ＡＬ】
08	事例から学ぶ教育相談（２）いじめ【ＡＬ】
09	事例から学ぶ教育相談（３）非行【ＡＬ】
10	事例から学ぶ教育相談（４）児童虐待【ＡＬ】
11	事例から学ぶ教育相談（５）子育てと家族の問題【ＡＬ】
12	事例から学ぶ教育相談（６）精神病理の問題【ＡＬ】
13	教育相談における職員間の連携について学ぶ
14	事例を通して関係機関とのコーディネートについて学ぶ【ＡＬ】
15	研究論文計画書作成　各自の研究テーマに適した論文を購読し発表【ＡＬ】
16	なし

2024年度シラバス

科目名:教育心理学特論Ⅰ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもを取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下が指摘され、小1プロブレムなど発達や学びの連続性を確保することも課題となっています。この授業では、教育現場でおきている現象を自身の具体的体験と学術研究から考察していくことを中心にしていきます。授業方法としては、文献を輪読すること、プレゼンすること、ディスカッションすることを行います【AL】。但し、授業計画で示す内容は、受講者の人数や関心により変更することがあります。

授業の到達目標
1) 子どもの育ちの現場で起こる様々な現象を心理学の専門用語を用いて、深く理解することができる（DP：専門知識）。
2) 最新の教育心理学のトピックスについて、批判的に思考することができる（DP：汎用的思考力）。
3) 先行研究やそこから新たに生まれる問いを他者に分かりやすく伝えることができる（DP：汎用的思考力）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（30%）、論文紹介発表（40%）、研究課題レポート（30%）
レポートは授業内で適宜フィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育における子ども理解に果たす教育心理学の役割
02	乳幼児期の遊びが知的・身体・社会性・情緒・言語発達に与える影響
03	親子関係と仲間関係が社会性の発達に与える影響
04	役割取得能力や社会的スキルの発達・学習
05	認知発達理論に基づいた道徳性、思いやりの発達
06	心の理論を背景にした嘘、関係性攻撃
07	自己効力感、有能感の獲得と発達
08	習うこと・真似ることの意味
09	子どもの意欲の源泉
10	評価されること、評価すること
11	先生としてのリーダーシップ
12	学習の躓きとワーキングメモリ
13	適正処遇交互作用
14	発達の偏りや外国につながりのある子など特別に配慮が必要な子どもの心理
15	研究のシーズをみつける
16	なし

2024年度シラバス

科目名:教育心理学特論Ⅱ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 特論Ⅱでは最新の知見を学びつつ、教育心理学の研究を行う練習をしていきます。教育現場の今日的課題および学術的背景に対し、どのような問いをたてるのか、どのような方法論で問いに応じていくのか、実際にデータを取得することによって解決していきます【AL】。近年は、再現可能性が心理学分野でも問題になっていますので、古典的な、教科書に載るような研究も追試していくことがあるかもしれません。
授業の到達目標 1) 教育心理学の研究法について専門用語を用いて、理解することができる（DP：専門知識）。 2) 問い（目的）に対して適切な方法論を考えることができる（DP：汎用的思考力）。 3) 妥当性や信頼性、研究の倫理についても理解し、研究者としての素養を身につけることができる（DP：汎用的思考力）。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。
評価方法 授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、研究課題レポート（50%） レポートや発表に対するフィードバックは、授業内で適宜行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育の今日的課題の確認
02	教育・保育で活かす心理学の研究方法
03	実験法（1）体験
04	実験法（2）分析
05	実験法（3）考察
06	質問紙調査（1）体験
07	質問紙調査（2）分析
08	質問紙調査（3）考察
09	面接法（1）体験
10	面接法（2）分析
11	面接法（3）考察
12	観察法（1）体験
13	観察法（2）分析
14	観察法（3）考察
15	研究論文の構成
16	なし

2024年度シラバス

科目名:教育学特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
　この授業では、日本の戦後教育（幼児教育と保育も含む）の理念・制度・政策・法を検討し、戦後教育の背景にある問題（教育・保育と市民社会・政治・経済との関連）を考察できる専門知識を身につける。また戦後教育の目的や機能を構造的に考察できる汎用的思考力を身につける。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。　＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートについてのフィードバックは、毎回、授業内で行う。

教科書	参考図書
適宜、指示する。	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	日本の近代公教育１
03	日本の近代公教育２
04	民主主義と教育基本法
05	戦後教育の保守化１
06	戦後教育の保守化２
07	市民社会と戦後教育１
08	市民社会と戦後教育２
09	グローバル社会・新自由主義経済と戦後教育１
10	グローバル社会・新自由主義経済と戦後教育２
11	戦後教育の市場化１
12	戦後教育の市場化２
13	教員養成の一元化と開放制
14	Soctety5.0と教育ver3.0
15	令和型日本の戦後教育
16	なし

2024年度シラバス

科目名:教育学特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
　この授業では、日本の保育実践とカリキュラムを歴史的に考察し、生活、遊び、活動、集団を巡る子どもと保育者の取り組みを理解する専門知識を身につける。また保育カリキュラムが、前期Ⅰの戦後教育（幼児教育と保育も含む）の機能という点から見て、幼小の接続としてどのように展望できるのかを考察できる汎用的思考力を身につける。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートについてのフィードバックは、毎回、授業内で行う。

教科書
　宍戸健夫『日本における保育カリキュラム　歴史と課題』新読書社、2017

参考図書
　適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	日本における保育カリキュラム１
03	日本における保育カリキュラム２
04	倉橋惣三と誘導保育１
05	倉橋惣三と誘導保育２
06	城戸幡太郎と保育問題研究会１
07	城戸幡太郎と保育問題研究会２
08	岸和子、海卓子の保育実践
09	畑谷光代、三木安正の保育実践
10	丸尾ふさ、恵那の保育実践
11	斎藤公子の保育実践
12	安部富士男の保育実践
13	まとめ
14	保幼小の接続の考察１
15	保幼小の接続の考察２
16	なし

2024年度シラバス

科目名:教育史特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、斎藤公子とさくら・さくらんぼ保育の実践を通して、人が育つということについての斎藤公子の知の世界の専門知識を身につけ、幼児教育・児童教育について考える汎用的思考力を身につける。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートのフィードバックについては、毎回、授業内で行う。

教科書	参考図書
斎藤公子『子育て＝錦を織る仕事』『斎藤公子の保育論』	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	語りきかせ
03	保育の芯、子育ての芯
04	子どもの心を探る、掴む
05	子どもと食事
06	子どもと盗み
07	子どもと嫉妬
08	保育の仕事を支えるもの
09	胎児からの保育
10	ゼロ歳児～六歳児の保育
11	ヒトの進化と保育
12	自然環境について
13	家庭環境について
14	斎藤公子の知（育つことの哲学）
15	斎藤公子が考える人間の姿（保幼小の育ち）
16	なし

科目名:教育史特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。　２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、倉橋惣三の著作の講読を通して、倉橋の子ども観、教育観、誘導保育についての専門知識を身につけ検討し、倉橋が描いた子ども理解と教育計画の特性を保幼小の観点から教育史の中に位置づける汎用的思考力を身につける。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートについてのフィードバックは、授業内で常に行う。

教科書	参考図書
倉橋惣三『幼稚園真諦』『幼稚園雑草(上)(下)』	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	幼稚園保育法
03	保育案の実際
04	保育過程の実際
05	園丁雑感
06	森の幼稚園
07	幼稚園雑感
08	幼児の教育者
09	幼児教育小観
10	保育論形成期
11	フレーベル幼稚園
12	恩物
13	倉橋惣三の教育史的位置付け
14	誘導保育と小学校教育
15	誘導保育と現代
16	なし

科目名:幼児教育学特論Ⅰ	担当者:上村 晶	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、乳幼児期の子どもを取り巻く幼児教育・保育に関する現状や今後の展望について，国内外の動向を踏まえた上で、今日的課題について検討する。加えて、受講者の関心トピックや研究的問いをディスカッションを通じて深掘りしていく中で、保育・幼児教育の質に関する自身の考えを明確にできるようにする。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々な幼児教育・保育の在り方を深く考えることを基軸に、実践に資するような学びとの往還を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①国内外の幼児教育・保育の質を巡る動向に関する基礎的な専門知識を修得する（MDP1）。
②受講者間同士の対話・プレゼンテーションを通して、エビデンスに基づきながら自身の問題意識や研究的問いを明確にするなどの汎用的思考力を身につける（MDP2）。
③国内外の現状を踏まえて今後の保育の在り方に関する課題を整理し、批判的思考を通して今後の研究への示唆を得る。

【到達目標と深く関連するDP】◎MDP1：専門知識、◎MDP2：汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
今年度は「幼児教育・保育の国際比較」を主テーマとして取り上げます。教科書は、第1巻/第2巻の2冊を取り扱いますので、全7章において各回の文献・資料等を事前に通読しておくと同時に、発表回にはレジュメを作成し、自身の見解を明確にしておいてください（§7-13は院生による発表となります）。また、ファイナルレポートは、第13回までの学びを生かしながら、作成・発表できるよう備えてください。

評価方法
文献レビューと発表（30%）、ディスカッションへの参加（30%）、ファイナルレポート（40%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と配慮事項をその場で伝える。

教科書	参考図書
国立教育政策研究所（編）「幼児教育・保育の国際比較：OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書（第1巻/第2巻）」明石書店	上村晶「保育者は子どもとどのようにわかり合おうとするのか」風間書房　※その他、受講者の興味・関心に応じて紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず、各々が常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OHや連絡先は初回授業時及びMoodleに開示します）。

01	オリエンテーション、個々の研究テーマ等の発表
02	個々の研究的関心に沿った文献および資料選定（１）検索・収集の方法
03	個々の研究的関心に沿った文献および資料選定（２）レジュメ作成の方法・発表方法
04	国内の幼児教育・保育の質の議論に関するディスカッション（１）ー幼稚園教育に着目して
05	国内の幼児教育・保育の質の議論に関するディスカッション（２）ー保育所保育に着目して
06	OECD諸国における幼児教育・保育の質の議論の変遷、OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018の概要と政策への示唆
07	文献の発表・ディスカッション（１）ー園の環境と構造の質（第1巻）
08	文献の発表・ディスカッション（２）ーガバナンス・資金調達と幼児教育・保育の質（第1巻）
09	文献の発表・ディスカッション（３）ー園長・保育者の勤務環境とその支援（第1巻）
10	文献の発表・ディスカッション（４）ー子ども・保育者・保護者間のやりとり（第1巻）
11	文献の発表・ディスカッション（５）ー保育者の養成教育、研修と専門性向上のための活動（第2巻）
12	文献の発表・ディスカッション（６）ー保育者の労働条件とウェルビーイング（第2巻）
13	文献の発表・ディスカッション（７）ー園におけるリーダーシップと管理運営（第2巻）
14	国内外の幼児教育・保育の質を巡る議論に関するファイナルレポート作成
15	ファイナルレポート発表・ディスカッション、総括
16	試験なし

科目名:幼児教育学特論Ⅱ	担当者:上村 晶	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、実際の幼児教育・保育におけるフィールド・スタディーを通して、実践現場に根差した研究的問いを立てながら、多様な研究方法や研究倫理について理解を深める。また、実際にデータ収集をした上で、受講生同士の対話を通じて多角的な視点から分析・考察する中で、論理的な思考の在り方について理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々なフィールド・スタディーの在り方を深く考えることを基軸に、実践に資するような研究の在り様を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①幼児教育・保育の実践に根差した多様な研究方法や研究倫理について、基本的な専門知識を理解する（MDP1）。
②幼児教育・保育における研究的問いを立てながら、研究デザインの構想に必要な基礎的な専門知識を修得する（MDP1）。
③実際に幼児教育・保育のフィールドに出向いてデータ収集・分析する中で、エビデンスに基づく論理的な考察などの汎用的思考力を修得する（MDP2）。
【到達目標と深く関連するDP】◎MDP1：専門知識、◎MDP2：汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
今年度は、研究テーマを具現化する研究方法について理解を深めながら、受講者間の議論を踏まえて選定した「幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータ収集と分析」を主テーマとして取り上げます。各回において課題となる文献・資料等を事前に通読すると同時に、授業外においても積極的に各自のデータ分析に取り組み、発表に備えてください。
また、第7-8回は実際にフィールドに出向いてデータ収集を行う予定です。なお、ファイナルレポートは、第13回までの学びを生かしながら、作成・発表できるよう備えてください。

評価方法
文献レビューと発表（30%）、ディスカッションへの参加（30%）、ファイナルレポート（40%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と配慮事項をその場で伝える。

教科書
指定しない（受講者の興味・関心に応じて紹介します）

参考図書
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編（2019）質的研究法マッピング　新曜社
大谷尚（2019）質的研究の考え方：研究方法論からSCATによる分析まで. 名古屋大学出版会
小塩真司・西口利文（2007）心理学基礎演習Vol.2　質問紙調査の手順　ナカニシヤ出版
平成29年告示版　幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず、各々が常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OHや連絡先は初回授業時及びMoodleに開示します）。

01	オリエンテーション、個々の研究テーマ等の発表
02	研究デザインについて　－研究計画書の作成方法
03	研究倫理について　－研究倫理審査の概要
04	フィールドワークと依頼方法　－依頼文書作成の方法
05	様々なデータ収集方法（１）－量的研究
06	様々なデータ収集方法（２）－質的研究
07	幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータの収集（１）保育環境・子どもの姿に着目して
08	幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータの収集（２）保育者の援助に着目して
09	収集データの分析方法（１）－量的研究
10	収集データの分析方法（２）－質的研究
11	分析データの発表・ディスカッション（１）分析方法の検討に着目して
12	分析データの発表・ディスカッション（２）分析プロセスに着目して
13	分析データの発表・ディスカッション（３）分析データを踏まえた総合考察に着目して
14	研究的問いに即したファイナルレポート作成
15	発表・ディスカッション、総括
16	試験なし

科目名:社会学特論Ⅰ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　社会学の巨匠と呼ばれるA．コント、M．ウェーバー、T．パーソンズ、また、カント、ヘーゲル理論から、「社会とは何か」「自らが問題とする対象を研究する際に、研究者が踏まえるべき前提」とは何かを学習する。「研究する」ということ、研究対象を選定するということ、その方法論等の研究における受講生の基本的な姿勢・実践を、授業中に扱う社会学理論に依拠しながら確認・習得する。

授業の到達目標
授業テーマの講義・説明後、受講者の選定に基づく課題についての研究成果を発表する。この場合、発表の準備、プレゼンテーションの方式、文書資料の探索と整理、口述の技法などの研究における汎用的能力の修得についても理解する。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
受講者が分担する課題について、その発表の準備、プレゼンテーションの方式等についての解説に則り、レジュメ等の準備をする。また、その発表後の研究成果についてのレポート作成を事後学修とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。作成したレジュメ、レポートについて授業終了後に提出し、その修正等を行った後に返却してフィードバックを行う。

教科書	参考図書
柿本昭人・嶋守さやか『社会の実存と存在』世界思想社、1998年	適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。社会学・理論についての習熟度は問わない。オフィスアワーは毎週土曜日のお昼休みとする。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	映像資料による「社会」の理解――記録と記述について
03	映像資料による「社会」の理解――グループディスカッションおよびプレゼンテーション
04	「社会」とは何か――研究対象を定めるということ
05	デュルケム――「もの」としての社会
06	デュルケム――「規範」とは何か
07	パーソンズ――「システム」という考え方
08	パーソンズ――秩序と病理
09	ウェーバー――宗教と社会
10	ウェーバー――主観性と科学
11	カント――「認識」自体の成立と始源
12	ヘーゲル――無限判断
13	ヘーゲル――Xを思考する
14	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
15	まとめ――社会学は「社会」を研究する学問なのか？
16	なし

2024年度シラバス

科目名:社会学特論Ⅱ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　研究対象となる社会の営みを質的に調査する手法について学修する。フィールドワーク、参与観察法、聞取り調査、ライフヒストリー研究、ドキュメント分析等の質的調査法に関する基本的理解を踏まえ、受講者の関心対象に応じたフィールドでの聞取り調査を実施し、質的データの収集と質的分析について理解する。

授業の到達目標
　統計的数量的調査とは異なる事例研究の技法を習得し、様々な事例研究方法の理解および実践的能力等の研究における汎用的能力の修得を授業の到達目標としたい。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業テーマの講義・説明後、そのテーマ内容と受講者の関心に応じた予備調査を行うことを準備学修課題とする。また、その質的データ分析結果をレポートとしてまとめることを事後学修課題とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。作成されたレジュメ、レポートについては授業後に提出し、その修正を行った後に返却してフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中に指示する	嶋守さやか『寿ぐひと』新評論

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。オフィスアワーは毎週土曜日のお昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	質的調査の基本的な考え方
03	質的調査と研究倫理
04	質的調査法（１）フィールドワーク、参与観察法
05	質的調査法（２）ライフヒストリー分析
06	質的調査法（３）ドキュメント分析、KJ法
07	質的調査法（４）聞きとり調査、インタビュー（構造化、半構造化）
08	質的調査の実際（１）問いを立て、技法を選択する
09	質的調査の実際（２）記録する
10	質的調査の実際（３）データを処理する
11	質的調査の実際（４）結果を分析する
12	質的調査の実際（５）考察を行う
13	質的調査の実際（６）報告書を作成する
14	質的調査の実際（７）調査結果を報告する
15	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
16	なし

2024年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもの今日的な課題を把握するため、研究的な視点を持って文献を網羅し、健康に関する理解を深めます。授業計画に列挙されている内容を受講者が分担し、プレゼンテーションを行っていただきます。先行研究における研究手法や統計解析方法についても学習します。

授業の到達目標
国内外の子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる(DP)。量的研究および質的研究について、統計解析や質的研究に関する解析方法を理解する。必要に応じて倫理申請書の作成が出来るようになる(DP)。
【到達目標と深く関連する大学院DP】
教育・保育分野での人材育成に必要となる高度な専門知識と汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献とプレゼンテーションの準備

評価方法
ディスカッションへの取り組み60%　プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
メール t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp で連絡

01	子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の検索、文献の記載方法
02	子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の要約
03	子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる領域のトレンド
04	子どもの健康に関わる先行研究（アンケートの解析例；基本統計量）
05	アンケートの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
06	子どもの健康に関わる先行研究（アンケートの解析例；クロス集計）
07	アンケートの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
08	子どもの健康に関わる先行研究（実測データの解析例；平均値の差の検定）
09	実測データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
10	子どもの健康に関わる先行研究（実測データの解析例；分散分析）
11	実測データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
12	子どもの健康に関わる先行研究（質的データの解析例；KJ法）
13	質的データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較境
14	子どもの健康に関わる先行研究（質的データの解析例；TEA）
15	質的データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
16	

2024年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅳ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
国内外の子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる(DP)。量的研究および質的研究について、統計解析や質的研究に関する解析方法を理解する。必要に応じて倫理申請書の作成が出来るようになる(DP)。
【到達目標と深く関連する大学院DP】
教育・保育分野での人材育成に必要となる高度な専門知識と汎用的思考力

授業の到達目標
国内外の子どもの健康について、ご自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる。量的研究および質的研究の方法や統計解析を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献とプレゼンテーションの準備

評価方法
ディスカッションへの参加60%、プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
メール t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp で連絡

01	子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の検索、文献の記載方法
02	子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の要約
03	子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる領域のトレンド
04	子どもの身体運動に関わる先行研究（アンケートの解析例；基本手統計量の実践）
05	アンケートの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
06	子どもの身体運動に関わる先行研究（アンケートの解析例；クロス集計の実践）
07	アンケートの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
08	子どもの身体運動に関わる先行研究（実測データの解析例；平均値の差の検定の実践）
09	実測データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
10	子どもの身体運動に関わる先行研究（実測データの解析例；分散分析の実践）
11	実測データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
12	子どもの身体運動に関わる先行研究（質的データの解析例；KJ法の実践）
13	質的データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
14	子どもの身体運動に関わる先行研究（質的データの解析例；TEAの実践）
15	質的データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
16	

2024年度シラバス

科目名:食育特論Ⅰ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．食育に関する指針や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達に合わせた食育に関するディスカッションと演習（9回）
なお、年齢に合わせた食育の内容については、受講生の興味関心を伺った上で、熟議しながら具体的な内容を決定していく。

授業の到達目標
１．栄養についての基礎知識や、保育所における食育、食生活に関する専門知識を身につける【DP】
２．食育に関する文献を収集し、ディスカッションすることができる
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけることができる
４．食育について考察し整理する汎用的思考力を身につけることができる【DP】

【到達目標と深く関連するDP】
◎専門知識
◎汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行うこと。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に調べ、考える力を養うこと。準備学修としての具体的な課題は、各授業の際に別途示す。

評価方法
授業への参加態度40%、プレゼンテーション40%、レポート20%の割合で評価する。提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	保育所保育指針　等　各指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食育に関する指針（１）食育基本法と食育基本計画
03	食育に関する指針（２）保育所保育指針　保育所における食育に関する指針
04	科学的な思考と考察
05	食と衛生管理
06	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
07	食品添加物と食育
08	調理と食育
09	SDGｓと食育
10	食文化と食育
11	乳児期の食育
12	幼児期の食育
13	学童期の食育
14	家庭における食育
15	特別な配慮を要する子どもの食育
16	

2024年度シラバス

科目名:食育特論Ⅱ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．食に関する諸問題をテーマとした食育に関する計画と演習（4回）
２．地域の特性を活かした食育に関する計画と演習（3回）
３．子どもを対象とした食育に関する計画と演習（8回）
※なお、各回の食育の内容および計画・演習の具体的な内容については、受講生の興味関心を伺った上で、熟議してその内容を決定する。

授業の到達目標
１．食生活に関する諸問題を踏まえた食育を高度な専門的知識をもとに計画することができる【DP】
２．地域の特性を活かした食育を計画することができる
３．幼児・児童を対象とした食育を実践するためのスキルを身につけることができる
４．食育について考察し整理する汎用的思考力を身につけることができる【DP】

【到達目標と深く関連するDP】
◎専門知識
◎汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
食生活に関する諸問題についての情報収集と演習後の振り返り
地域で行われている食育活動に関する調査（広報・新聞など）
食文化に関する調べ学習
食育活動に関する情報収集（論文・文献など）
プレゼンテーションの準備

評価方法
授業（各演習時のプレゼンテーション含む）への参加態度70%、レポート課題30%の割合で評価する。提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	食育白書　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食の諸問題と食育活動
03	食の諸問題に対応した食育計画
04	食の諸問題に対応した食育計画と演習
05	地域の食文化と食育活動
06	地域の食文化を活かした食育計画
07	地域の食文化を活かした食育計画と演習
08	保育園・幼稚園における食育
09	保育園・幼稚園における食育計画
10	保育園・幼稚園における食育計画と演習
11	子どもを対象とした食育
12	子どもを対象とした食育の計画
13	子どもを対象とした食育の準備
14	子どもを対象とした食育の演習
15	子どもを対象とした食育の振り返り
16	

2024年度シラバス

科目名:体育特論Ⅰ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。 「体育特論Ⅰ」では、まず子どもの体力低下の現状と原因について、調査と意見交換を通して課題の整理を行う（DPに示されている専門知識に関連する）。また、教育現場での体育指導の見学を通して、学校体育の課題を検討する。その上で、体力向上を実現する体育授業のあり方を考える（DPに示されている汎用的思考力に関連する）。 なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはTeamsなどのeラーニングシステムを活用する。
授業の到達目標 １、子どもの体力低下の現状を理解する。（DP：専門知識） ２、学校体育の課題を理解する。（DP：専門知識） ３、体力向上を実現するための指導計画を立案する。（DP：汎用的思考力）
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 子どもの体力低下に関する関連資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。
評価方法 講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（30％）、実践活動（40％）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業の概要、子どもの体力低下①（問題と背景）
02	子どもの体力低下②（文献抄読）
03	子どもの体力低下③（文献抄読、教育現場の現状）
04	子どもの体力低下④（調べ学習の発表）
05	学校体育の課題①（文献抄読、教育現場の現状）
06	学校体育の課題②（授業見学）
07	学校体育の課題③（授業見学、授業者からの話）
08	学校体育の課題④（指導計画について、授業者からの話）
09	学校体育の課題⑤（授業者、受講生による意見交換）
10	課題への対応策の検討①（グループ内討議）
11	課題への対応策の検討②（グループ間討議）
12	課題への対応策の検討③（まとめ）
13	指導計画作成
14	指導計画作成についての意見交換
15	まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:体育特論Ⅱ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。 「体育特論II」では、「体育特論Ⅰ」で立案した授業計画の一部を実践し（DPに示されている専門知識及び汎用的思考力に関連する）、さらに現場の教師と意見交換することを通して、自分の指導力を高めるとともに、体力向上を実現する授業のあり方を考える（DPに示されている汎用的思考力に関連する）。 なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはTeamsなどのeラーニングシステムを活用する。
授業の到達目標 １、指導計画に基づいた授業実践を行う。（DP：専門知識・汎用的思考力） ２、実践を振り返り、次の授業計画を立案する。（DP：汎用的思考力） ３、体力向上を実現する授業方法について自分なりの考えを持つ。（DP：汎用的思考力）
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 体育科教育に関する資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。
評価方法 講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（30%）、発表（40%）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業の概要、指導計画について
02	体育授業の実践例①（球技）
03	体育授業の実践例②（陸上運動）
04	体育授業の実践例③（ダンス）
05	指導計画の立案
06	指導計画についての意見交換
07	指導計画の修正
08	授業実践
09	授業実践の振り返り、改善策の検討
10	体育科教育に生かす運動生理学
11	体育科教育に生かす疫学
12	体育科教育に生かす運動方法学
13	体育科教育に生かす体育心理学
14	体育授業の意義
15	まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:図画工作特論Ⅰ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講Ⅰでは、平成29年公示の小学校学習指導要領に基づき、改訂された図画工作教科書における題材研究と指導法について考察する。令和2年4月より完全実施された第8次改訂の小学校学習指導要領は、多様な社会の変化に主体的に関わる力や新たな価値の発見や創造するための力の育成を目指すものとして示されている。そこで本講では、表現の多様性を生み出す発想や構想の能力、知識・技能の育成に大きく関わる表現領域の題材に着目し体験的に学ぶ。

授業の到達目標
（１）図画工作科の題材研究を通して、教科目標や題材どうしのつながり、位置づけについて理解することができる（専門知識）。
（２）図画工作科の表現領域における材料・用具の指導における基礎を理解することができる（専門知識）。
（３）図画工作科の学習領域やICTを使った学習における今日的な指導課題について理解し、自分なりの考察をまとめることができる（汎用的能力）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・学習指導要領解説書や、学習領域に関わる指定論考を事前に読み、まとめておく。
・受講後に関連する資料を読み、考察をまとめる。
・最終講で発表を行うための資料を、講義ごとにPowerPointで作成する。

評価方法
講義への出席（10%）、最終的なプレゼン発表（60%）・関連資料（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本講義ではパソコン等を利用し、作品管理・資料の閲覧・プレゼンを行う。
・教材研究に関わる材料費は「図画工作特論Ⅱ」も同様に、個人負担とする。

01	ガイダンス（図画工作特論Ⅰの概要、指導スケジュール等）
02	図画工作科の「造形遊びをする活動」に関する諸課題について
03	図画工作科の「絵や立体、工作に表す活動」に関する諸課題について
04	図画工作科の鑑賞と〔共通事項〕に関する諸課題について
05	図画工作の題材とICTについて
06	低学年の学習指導と題材研究1　「カラフルいろみず」
07	低学年の学習指導と題材研究2　「うつしたかたちから」
08	低学年の学習指導と題材研究3　「ひもひもねんど」
09	低学年の学習指導と題材研究4　「わっかでへんしん」
10	低学年の学習指導と題材研究5　「かみざらコロコロ」
11	低学年の学習指導と題材研究6　「すきまちゃんのすきなすきま」
12	中学年の学習指導と題材研究1　「光とかげから生まれる形」
13	中学年の学習指導と題材研究2　「まどをのぞいて」
14	中学年の学習指導と題材研究3　「クミクミックス」
15	発表・まとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:図画工作特論Ⅱ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講Ⅱは、小学校図画工作の各学年の目標や内容を踏まえ、造形遊びをする活動・絵や立体、工作に表す活動・鑑賞活動において題材研究を行うことを目的とする。それぞれの学習領域の構成や活動の関連性を踏まえながら、材料や用具の基礎的な扱い方や指導上の留意点等について体験的に学ぶ。さらに、今日の指導課題である合科・教科横断型の指導やICTを用いた授業展開を目指し、様々な実践事例の収集を行うとともに多面的・多角的な教育評価の方法について理解する。

授業の到達目標
（１）図画工作科の題材研究を通して、教科目標や題材どうしのつながり、位置づけについて理解することができる（専門知識）。
（２）図画工作科の表現領域における材料・用具の指導における基礎を理解することができる（専門知識）。
（３）図画工作科の学習領域やICTを使った学習における今日的な指導課題について理解し、自分なりの考察をまとめることができる（汎用的能力）。
（４）図画工作科教育における今日的な課題を学び、様々な要因や具体的な改善策について検討をすることができる（専門知識）（汎用的能力）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・図画工作の様々な教育実践の事例収集を行うこと。
・指定された資料について事前に熟読しておくこと。
・本講義の最終講で発表を行うために、講義ごとのまとめをPowerPointで作成すること。

評価方法
講義への出席（10%）、レポート（60%）・発表（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・講義において小学校をパソコン等を利用し、作品管理、資料の作成・閲覧、プレゼンを行う。

01	ガイダンス（図画工作特論Ⅱの概要、指導スケジュール等）
02	中学年の学習指導と題材研究4　「絵の具でゆめもよう」
03	中学年の学習指導と題材研究5　「光のさしこむ絵」
04	中学年の学習指導と題材研究6　「くぎうちトントン」
05	高学年の学習指導と題材研究1　「でこぼこの絵」
06	高学年の学習指導と題材研究2　「心のもよう」
07	高学年の学習指導と題材研究3　「水の流れのように」粘土成形
08	高学年の学習指導と題材研究4　「水の流れのように」焼成
09	高学年の学習指導と題材研究5　「くるくるクランク」クランクのしくみ
10	高学年の学習指導と題材研究6　「くるくるクランク」発表
11	表現と一体となった鑑賞と指導研究　「トントンギコギコ図工の時間」の視聴
12	独立した鑑賞活動における題材と指導研究　神奈川沖浪裏の鑑賞を通して　DVD視聴
13	レポート研究1　鑑賞題材の研究「日本の作品について」
14	レポート研究2　鑑賞題材の研究「諸外国の作品について」
15	レポート発表と討論
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:特別支援教育特論Ⅰ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特別支援教育の概要と動向について歴史的背景、教育課程、教育内容、学習指導、発達支援の視点から検討する。インクルーシブ保育・教育の国内・海外の動向及び、それらに係る保育者・教師の専門性について検討する。

授業の到達目標
①特別支援教育（インクルーシブ教育システムを含む）に関する専門知識を身につける。[DP]
②特別支援教育の動向を多方面から分析する汎用的思考力を身につける。[DP]
③インクルーシブ保育・教育に関する保育者・教師の専門性について理解できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、各回テーマに係る特別支援教育に関する基本的文献をレビューすること。
事後学習として、各回テーマに係ることについて自身の考えをまとめ、整理しておくこと。
特別の支援を必要とする子どもと関わる機会をもち、子どもから学び得たことについてまとめておくこと。

評価方法
授業内の発言（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート試験（50%）により総合的に評価する。
授業に関する意見・質問およびレポートについて、毎回の授業時および最終授業にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業内で資料を配布する。	授業中に随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたり、自身の学修や経験から特別支援教育に関する問いや疑問を持ち寄っていただきたい。その答えや解決の糸口を皆さんと共に授業の中で追及していきたい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、障害とは
02	特別支援教育（インクルーシブ教育システム）の理念、仕組み、課題
03	就学前施設の特別支援教育
04	小・中・高等学校の特別支援教育
05	特別支援学校の教育
06	特別支援教育の視点を用いた保幼小接続期の支援
07	各教科と自立活動の学習
08	障害特性を踏まえた「各教科」の学習指導
09	障害特性を踏まえた「教科等を合わせた指導」の学習指導
10	障害特性を踏まえた「自立活動」の学習指導
11	障害特性を踏まえたあそびの指導・発達支援
12	特別な支援を必要とする子どもの理解（就学前施設における子どもの行動）
13	インクルーシブ教育における国内、海外の動向
14	インクルーシブ保育・教育における保育者・教師の専門性
15	特別支援教育の視点から考える各自の実践・研究に関する報告・検討
16	なし

2024年度シラバス

科目名:特別支援教育特論Ⅱ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特別支援教育の対象となる子ども・人、特別支援教育に携わる教師に対する深い理解を追求する。「発達障碍のある人と共に育ち合う「あなた」と「私」の生涯発達と当事者の視点」に収録されている論考、障害当事者の姿、教育実践を基に検討を行う。

授業の到達目標
①特別支援教育（インクルーシブ教育システムを含む）に関する専門知識を身につける。[DP]
②人が人と共に育つことについて、特別支援教育の視点から分析する汎用的思考力を身につける。[DP]
③インクルーシブ保育・教育に関する保育者・教師の専門性について理解できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、各回テーマについての論考、提示資料を読み、自身の考えをまとめ、整理しておくこと。
事後学習として、各回テーマについて自身の体験・実践と絡めて自身の考えを整理しておくこと。
特別の支援を必要とする子どもと関わる機会をもち、子どもから学び得たことについてまとめておくこと。

評価方法
授業内の発言（20%）、論文講読に関する発表（30%）、レポート試験（50%）により総合的に評価する。
授業に関する意見・質問およびレポートについて、毎回の授業時および最終授業にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書
発達障碍のある人と共に育ち合う「あなた」と「私」の生涯発達と当事者の視点　金芳堂	授業中に随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたり、自身の学修や経験から特別支援教育に関する問いや疑問を持ち寄っていただきたい。その答えや解決の糸口を皆さんと共に授業の中で追及していきたい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　各自の特別支援教育・障害児者支援に関わる体験・経験の意見交換
02	発達障害のある人ともに「育ち合う」関係へ　―関係発達障害論―
03	発達障害支援の在り方を問い直す
04	発達相談におけるアセスメントと支援
05	木漏れ日　－「私」と「私たち」が紡ぐ暮らし－
06	療育の場における支援
07	小中学校における支援
08	特別支援学校における支援
09	高等教育段階での支援
10	成人期以降の支援
11	身体とつなぐ・仲間とつなぐ　―自閉スペクトラム当事者の視点から―
12	肢体不自由児の姿、教育実践から教師の専門性を考える
13	病気の子どもの姿、教育実践から教師の専門性を考える
14	重複障害児の姿、教育実践から教師の専門性を考える
15	各自の実践・研究を特別支援教育の視点から分析する
16	なし

科目名:幼児理解特論Ⅰ	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本特論では、保育・教育を行う上で土台となる「子ども理解」について必要な様々な理論の修得を目的とする。特に、子どもー養育者間の関係性に焦点を当てた乳幼児精神保健をフレームワークとした複数の理論や、保育研究者津守真氏の保育学をはじめとする子どもの行為の意味の探究などオーソドックスな基礎理論、子ども理解に必要な保護者理解や内省等、論文、事例検討（エピソード記録）、映像資料を通して学ぶ。

授業の到達目標
１．乳幼児理解の様々な理論の視点を修得する。
２．乳幼児の内面の理解に効果的な観察や記録の方法を理解する。
３．乳幼児理解に保護者理解や内省を深めていくことの意義を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
最初の授業時に、各授業に関連する文献について説明をする。該当の授業の前には、それらの文献を読んでおくこと。また、事後学修は、授業後に課題を提示するので、それに取り組むこと。

評価方法
授業に臨む姿勢１０％、準備学修２０％、事後学習課題２０％、最終レポート課題５０％により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
適宜、資料を配布する。	適宜、紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
最初の授業時に、連絡手段を伝える。活発な議論を期待する。

01	オリエンテーション、子どもを理解するということ
02	妊娠期からの子ども・親理解
03	乳幼児精神保健からの乳幼児理解（１）：愛着、基本的信頼感、コンテイメント
04	乳幼児精神保健からの乳幼児理解（２）：相互交流、情緒応答性
05	乳幼児精神保健からの乳幼児理解（３）：間主観性、コミュニケーション的音楽性
06	乳幼児精神保健からの乳幼児理解（４）：分離、喪失
07	脳科学から見た乳幼児理解
08	ロバートソンフィルム「ジョン」の視聴・子どもの行為から考える
09	ロバートソンフィルム「ルーシー」の視聴・子どもの行為から考える
10	津守保育論：子どもの行為の意味の探究（１）
11	津守保育論：子どもの行為の意味の探究（２）
12	観察力・記録力・考察力・内省力
13	保護者理解（１）
14	保護者理解（2）
15	まとめ
16	

科目名:幼児理解特論Ⅱ	担当者:ダーリンプル 規子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本特論では、幼児理解特論Ⅰに続き、情緒・社会的発達に関する最新の理論の修得を目的とする。また、実際に子どもを観察するあるいは、子どもと関わる機会を作り、エピソード記録を書き、その記録から、自分自身の内省、子ども理解に取り組み、子ども理解の実際について修得する。

授業の到達目標
１．最新の理論について理解する。
２．幼児理解特論Ⅰ・Ⅱで修得した理論が現場での子ども理解を深めていくことを理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　最初の授業時に、各授業に関連する文献について説明をする。該当の授業の前には、それらの文献を読んでおくこと。また、何らかの形で、乳幼児を観察し、エピソード記録を事前に書き、授業に臨む。事後学修は、授業後に課題を提示するので、それに取り組むこと。

評価方法
授業に臨む姿勢１０％、準備学修２０％、事後学習課題２０％、最終レポート課題５０％により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
適宜、資料を配布する。	適宜、紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
最初の授業時に、連絡手段を伝える。活発な議論を期待する。

01	オリエンテーション、特論Ⅰのふりかえりから特論Ⅱへ
02	OECD幼児教育・保育白書から子ども理解の意義を考える
03	最新の理論（１）：グレイアム・ミュージック（愛着・神経科学・精神分析）
04	最新の理論（２）：アラン・ショア（神経心理学）
05	最新の理論（３）：ニック・ミッジリー（メンタライゼーション）
06	赤ちゃん観察（１）
07	赤ちゃん観察（２）
08	ワーク・ディスカッション（１）
09	ワーク・ディスカッション（２）
10	エピソード記録：事例を読み解く（１）
11	エピソード記録：事例を読み解く（２）
12	エピソード記録：事例を読み解く（３）
13	エピソード記録：事例を読み解く ()
14	子ども理解と同僚性
15	子ども理解と保育の変容
16	